

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 善本亮

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

【獣医薬理学総論、各論、実習】

薬物と生体の相互作用に関する概念から、各薬物の作用機序、薬物治療の基本的な考え方などについての講義を行う。実習では生きた動物や臓器などを用い、学生自らが手を動かし、得られた結果に対して共に議論・考察することで、薬理実験の手技を経験するとともに、講義で学んだ知識の定着を図る。

【総合獣医学（薬理）】

ポイントを押さえながら全体を再整理することで、国家試験対策の手助けとなるような講義を行う。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医薬理学総論	獣医学科	必修	3	153
獣医薬理学各論	獣医学科	必修	3	146
獣医薬理学実習	獣医学科	必修	3	146
総合獣医学	獣医学科	必修	6	163

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

カタカナの薬物名と作用機序を色々覚えなくてはならず、国家試験的にはコスパが悪いと思われがちだが、生理学、生化学、化学などの理解があれば、国家試験が五択なことを考えると、丸暗記に走る要素はさほど多くはない。また、クスリにお世話になったことがないヒトはいないと思え、表面的にはとっつきやすい学問領域だと思える。この点を活かし、講義時には、関連する生理学や病気の説明を事前に十分行うことで、薬理が理解しやすくなるよう努める。また、絵や動画、必要であれば数学的に説明することで、学生の得意不得意の影響少なく理解が深まるようにしている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

薬理学は医薬品の作用を学ぶ学問であるが、医薬品は生命科学の理解、科学の進歩、病気からの解放という欲望、医師や企業の使命感に加え、企業の利潤追求が複雑に絡み合った成果物である。また、医薬品は日常生活とも関係が深く、教育の観点では、生理学、生化学、内科、外科、感染症などとも密接に関連する。製薬企業で長年勤務した経験を活かし、単なる薬理学の講義ではなく、疾患理解の変遷、医薬品のニーズや開発された経緯、有効性や有害性がどのようにして実証されてきたかなど、薬物を通じて、生命科学や治療、世界の流れを伝え、幅広い分野に興味を抱くようなになれるような教育を行う。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

当日の講義内容に沿った小テストを講義後に毎回學理に提示している。解説欄には正答だけでなく関連する薬物や作用機序をまとめて解説し、回答後の頭の再整理や、試験前に見返して利用しやすいような形式にしている。早期の復習を促すため、締め切りは講義1週間以内としており。回答・提出は任意としているが、90%以上の提出率となっている（割合は僅かだが、提出率は評価の対象とすることは伝えている）。また、試験前の自己学習用に、繰り返し学習が可能な小テストを掲示している。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料のスライドを授業1週間前、講義動画はGoogle Meetsで録画し、授業終了1～2日以内に學理に提示している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

前年度の講義で得た学生からの質問から、学生の理解が追いついていないと思える点を充足させたり、関連する最新の情報を収集、新しく紹介するなど、前年度の資料は必ずバージョンアップさせている。

(2) 学生の理解度の把握

B

学理の小テストで自由記載欄を設け、質問に対する返答を実施している。また、講義後に質問があるようであれば、必ず回答している。また、実習中に声掛けを行い、その時の実習に関連する薬理の内容の理解度を確認している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学理での小テストを実施している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学理や講義後の質問対応、実習中の会話

（５）双方向授業への工夫

C

学生が150人おり、現実的に難しい

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

薬理コアカリの各論における一般到達目標は、“代表的な薬を上げ、薬理作用、機序、有害作用、主な臨床応用、動物種差を説明できる”と毎章同じような内容となっており、メリハリが全くなく、学生にとってポイントがつかみにくいと考えている。国家試験での出題を見る限り、ポイントが存在することから、前期、後期の最終授業時や総合獣医学の際にそれらの具体的な説明を行った。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

表記の仕方やフォントの統一まで含めた分かりやすい資料の作成をするとともに、日ごろの講義では、期末の総まとめでは、各講義のポイントの説明に注力した。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料の分かりやすさと期末のまとめ講義は概ね好評だった

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

学生が興味を抱き、主体的に学習するような講義になるよう、継続的な資料・講義の改善に努める

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学生の真の理解度を把握するため、今期は前期試験で記述問題を初めて一部取り入れたが、学生によって著しい差があった。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

記述試験のフィードバックは特にアンケートに記載がなかったが、既述問題の正答率や実習中の会話などを通じて、根本を理解できていない学生がそれなりに多いことを認識した。学理上の小テストの出題内容を今後少し変更し、知識の定着以外の観点も問うことを考えたい。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

FD研修会には全て参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

學理小テストや自由記載欄の改良を行い、暗記ではない理解度を図るような試みを行うとともに、学生からの優れた質問などを共有することで、他の学生にも良い影響を与える試みを行いたい。長期的には、学生からもっと質問が出るような仕組みや授業形態を考えたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

（自ら作成するもの）授業に関するもの：シラバス，小テスト，試験問題，授業資料